



産地直結の東都生協の物流の仕組み、実はすごいんです！

～ポテトサラダの野菜はどうやって運ばれてきたの？～



今夜、東都生協の産直野菜でポテトサラダを作ろうかな！
でも、この野菜たちって、どうやってうちまで運ばれてきたの？
産地と組合員を結ぶ、東都生協の物流システムを紹介します。

2024年5月から稼働開始！
東都生協 草加要冷セットセンター



おいしく食べてほしい！



お届け完了
トラックの温度 10℃

組合員に届けるため午前8時ごろからトラックに積み込み作業を開始。基本的に収穫から中2日で組合員に届きます！

収穫から3日目

草加要冷セットセンターを出発し、12カ所の供給センターへ届けます。
トラックの温度 10℃

出発配送
夜～翌朝



輸送用の大型保冷容器を積み付けロボットによって積み上げます。
青果がセットされた保存容器は7個組で積み重ねられ、一番上にふたをします。



じゃがいもは検品後、紙袋に入れます。
ポリ袋より高価ですが、紙袋の方が、冷気が直接当たることなく、結露防止など湿気対策にも有効。蛍光灯の光でも緑色に変色してしまうため、遮光面での効果も高いです。



【検品】じゃがいもは、緑色に変色している物、表面に斑点や掘り傷がある物、空洞果が発生しやすい大きなサイズは、極力取り除きます。

自動で袋掛けし、コース番号と名前、バーコードなどが印字されたラベルを貼り付けます。



人の手でやっていたポリ袋のセットを機械化しました。

自動袋掛けラベル貼り付け

ベルトコンベヤーに流れてくる箱に袋をかぶせ、棚から抜き取った商品をセットしていきます。



商品をセットする箱は、追跡ガイドランプを目印に判別します。

ピッキング箱詰め



ピッキングの指示は、棚ランプの点滅によって瞬時に判断します。

集品棚には集品指示用のランプが付いています。

大型保冷容器詰め



輸送用の大型保冷容器に商品の入った袋5～6袋と蓄冷剤を詰め込みます。

大型保冷容器積み付け

集品棚にセット

検品した野菜を集品棚にセットします。



検品後、計量しながらトマト箱に入れます。



抜き取り検品後、生産者カードを入れ袋詰めします。



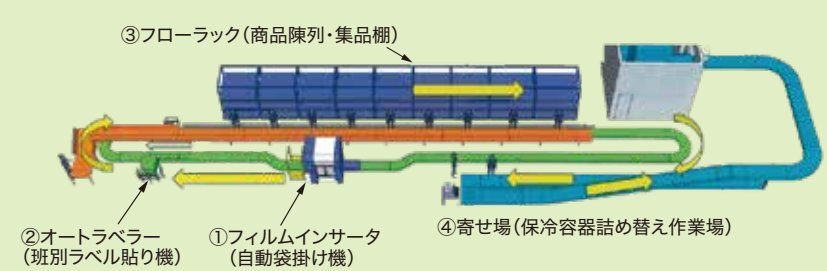
【検品】とろけ、虫食い、虫の混入の確認。切り口が赤いのは鮮度とは関係ないため、あえて切り落とさず、手早く袋詰めします。



たくさんの方が作業してくれています！

検品と袋詰め
工場内の温度 10℃

収穫から2日目



産地直結でお届けするよ！

収穫1日目

収穫作業開始



日の出とともに作業開始だよ

ほとんどの野菜は午前中のうちに収穫します。

レタスのような葉茎菜類は、収穫後すぐに「予冷」。「予冷」をすることで葉の養分を使い、花を咲かせようとする野菜の成長を落ち着かせ、水分や栄養価の低下を防ぎます。

予冷庫の温度 5℃

保冷トラックに積み込み、草加要冷セットセンターへ向け出発！

トラックの温度 10～15℃

積み込み



草加要冷セットセンター



保管室の温度 10℃

夕方(午後3時ごろ～8時30分ごろ)にコンテナで入荷し、野菜冷蔵保管室へ。

袋は回収・リサイクルしています！



商品お届け用ポリ袋の形状が変わり、今までの袋を薄手の袋に変更したことで年間約30%のプラスチック削減につながりました。袋は溶解してリサイクルしています。

集品ライン

未来につなぐ募金

東都生協では、誰もが健康で安心して暮らし続けることのできる地域社会の実現を目指す活動(団体)への応援、助成を行っています。組合員一人ひとりの思いを寄せ合い集めた募金を、東都生協の商品に換えて応援する仕組みです。毎号、助成団体を紹介しています。

200円から支援できます

募金方法は、注文書の**特別企画注文欄「商品(申込)番号」に【365920】の6桁番号を記入し、「数量」欄に募金する口数を記入してください。1口200円です。**

※インターネット注文「とうとねっと」、電話注文でも募金ができます。

団体名 柏木教会フードパントリー

設立 2023年4月 ボランティアの受け入れ あり
代表者 南望さん 広報ツール ホームページ、Instagram
活動拠点 新宿区 新宿区社会福祉協議会ホームページ
活動内容 フードパントリー
メンバー ボランティアスタッフ8人(教会員、地域住民)

柏木教会の重厚で大きなドア



助成団体紹介
Vol. 16

自立のための支援を

にぎやかな大久保駅から歩くこと数分。端正なたたずまいの柏木教会に到着します。中庭を擁し、誰もがくつろげて落ち着ける豊かな空間で、フードパントリー事業が行われています。

柏木教会が、日本初のフードバンクである特定非営利活動法人セカンドハーベスト・ジャパンの物資の提供場所となったことが出発点で、現在は、物資の確保から配布までを独自に運営しています。

支援の対象は、新宿区・中野区・杉並区・豊島区・渋谷区に在住で、支援団体からの紹介状・ひとり親医療証・児童手当受給証・生活保護受給中であることが証明できる書類のいずれかを持っている方。こうした条件を満たした方が予約しての利用となります。条件を付けているのは、支援組織と接点を持ってもらうことで、事業の目的である自立した生活の実現に結び付けるためです。そのため、支援の回数も基本6回までとしているそうです。コロナ禍では100世帯近くまで増えましたが、地域密着の理念のもと対象地域を絞ることにし、30世帯まで減少しました。現在は再び約50世帯まで増加しています。物価上昇の影響かもしれません。また外国籍の方や留学生も訪れていました。

柏木教会と東都生協は、昨年度からフードドライブの取り組みでも連携しています。集まった食品の仕分け作業への組合員の参加もあり、その後の団体のボランティア活動につながっているそうです。



コンテナの品々を…1世帯分に仕分けが終わりました



団体名 大山子ども食堂の会

設立 2022年11月 メンバー 地域住民、ボランティア
代表者 徳田 五十六さん ボランティアの受け入れ あり
活動拠点 板橋区 広報ツール チラシ、学校掲示板、町内会掲示板
活動内容 子ども食堂、食材配布、学習や遊びの支援、農場運営と農作業体験、保護者との懇談や相談

おいしくて、見た目もきれいと好評な夕食



助成団体紹介
Vol. 17

ここは第二のリビングルーム。おいしいものを食べてゲームを楽しんで

月曜の午後4時半、受け付け開始と同時に何組もの親子が訪れました。テーブルを囲んで座り、オセロなどのゲーム盤を出して遊びながらにぎやかにおしゃべり。食堂のオープンは5時半なのに、1時間も早く来る人が大勢いるのは不思議でした。でも、楽しくくつろぐ様子を見たら納得です。「食事だけでなく、ここなら近所を気にせず大きな声を出したり走り回ったりできる、と皆さん楽しみにしているんです」と運営メンバーの皆さん。

食事を作っているのは、隣の「喫茶おもちゃばこ」スタッフと調理ボランティアの方々です。だしをきちんととるなど質にも心を砕き、幕の内弁当の器(店提供)で見た目にもおいしそうです。厨房設備の制約で40人限定ですが、第1、第3月曜日に開催し、おとな300円、子どもは無料です。帰りには東都生協提供の予備野菜と、助成金で購入した卵・豆腐・納豆などの食材セットがお土産として手渡されます。「子どもにはたんぱく質が大事だから」と代表の徳田さん。

小さいながら農園を持ち、みんなで収穫を楽しむなど、食堂以外の活動にも意欲的です。現在は幼児が多いけれど「成長して小中学生になったら、学習支援を本格的に始めたい」とのことでした。



持ち帰り食材セット(東都生協提供の予備野菜と、助成金で購入したたんぱく質食材)



食事風景

2024年5月から稼働開始!

10月号特集 草加要冷セットセンター

祝! 草加要冷セットセンター稼働

5月から新たな施設、草加要冷セットセンター(埼玉県草加市)が稼働しました。産地からの青果物や冷蔵品、冷凍品はここで班(個人)ごとにセットされてから、各供給センターに運ばれ、組合員の皆さんの元に届けられています。

ここがいいね! その01 環境にやさしい施設

◆空調の一部に自然冷媒機器を採用し、環境に優しい施設に

自然冷媒とは、フロンなどを使用せず、もともと自然界にある二酸化炭素(CO₂)などを圧縮し、気化させる際の作用で冷却する仕組みです。地球温暖化係数が小さく、冷凍温度帯へ採用すると節電効果があります。

◆太陽光発電パネルの設置と工業用水を活用した施設に



太陽光発電パネルを設置し、施設の電力の一部を賄っています。電力の購入量を減らすことで二酸化炭素(CO₂)の削減につながりました。電力は蓄電池にためて停電時に備えます。センター内のトイレは近隣の浄水場で簡易浄水された工業用水を使用し、環境への負荷を軽減しています。

ここがいいね! その02 ロボットを導入

床の耐荷重値が格段に増したことで、フォークリフトや自動積み付けロボットの導入ができ、重労働の作業量が減りました。人の手で行っていた作業も自動化することで効率化を進めています。働きやすい環境を整備することで、従業員の定着と人手不足の解消を目指します。



ここがいいね! その03 要冷温度を保てる施設

建物自体を要冷専用設計にしたことで結露や温度変化が抑えられるように。あらかじめ除湿した外気を冷却しているので低温度帯の庫内の寒さが軽減されました。



草加要冷セットセンター稼働直後の6月下旬にインタビューしました。商品セットには1日240人も従業員が携わっています。

Q 草加要冷セットセンターが稼働しました。メリットは何ですか?

A 集品ラインを増やして各温度帯専用としたことで、これまで深夜までかかっていた集品作業が夜の8時頃には終了できるようになり、深夜作業の削減と専用設計による効率化で、より少ない人数で作業が可能となりました。

Q 従業員の反応はいかがですか?

A おおむね好評です。作業場以外の部分でも、トイレの数を格段に増やし、パウダールームも完備し快適に利用してもらっています。休憩室は天井を高くしたことで開放感があり、思い思いの場所で休憩をすることができています。

Q 組合員からの問い合わせ、反応はありましたか?

A 一番多かったのは「商品お届け用ポリ袋をリサイクルしていることを知らなかった」という声です。次に「ポリ袋が変わり、取っ手がなくなり不便になった」というものです。セットセンターの移転によって袋が変更になった事情や、プラスチック削減も進んでいること、ご意見を受けてラベルシールの改良を行っていることなどを丁寧に説明しながらご理解を得られるようにしていきます。

Q 組合員に向けてのメッセージをお願いします。

A 新セットセンターを作った目的は「さらに良い品質で組合員のお宅へ商品をお届けすること」です。「組合員の財産」と呼べるよいセンターができたと思います。ここ数年続いた保冷剤凍結不足問題も解消できる見通しですので、これからも組合員の皆さんには安心してたくさん商品を利用していただきたいと思います。



物流部
平野亨部長
に
インタビュー

竣工式に理事会メンバーで訪問

半導体や建設資材不足など、幾多の障壁を乗り越えて建設された草加要冷セットセンター竣工式の4月23日に訪問しました。各階段の壁にさんぼんすぎキャラクターの「るるんズ」をあしらうなど、とても明るく親しみやすい施設でした。

「産直の東都生協の品質」を次の世代につなぐため、新時代にふさわしい人と環境に配慮した新セットセンター。その稼働

し始める現場をじっくり見学、確認できました。私たち組合員と産地・メーカーをつなぐ重要な物流を支えるセンターを活用していくために、これからも東都生協の商品を「みんなで利用」していきましょう!

